



組込製品でのLinuxは、

バイナリ形式で組み込まれる

その条件をGNU GPLv2で見ると

### GNU GPLv2 第3条

3. あなたは上記第1条および2条の条件に従い、**許諾条件1**(BSDライセンス)で複製または頒布することができます。**許諾内容**

ただし、その場合あなたは以下のうちどれか1つを実施しなければならない

a) 著作物に、『プログラム』に対応した完全かつ機械で読み取り可能なソースコードを**添付する**。(中略) **「ソース公開」とは書いていない**

b) 著作物に、(中略)ソースコードを、(中略)提供する旨述べた少なくとも3年間は有効な書面になった**申し出を添える**。(以下省略) **許諾条件2**

この二つの行為を合わせて私は「ソース開示」と読んでいます。ソース開示方法a)とb)のメリット/デメリットをご存じだろうか？

### ソース開示方法によるメリット/デメリット

ソース開示方法	a)	b)
による違い	ソース添付	申し出添付
製品にソース格納媒体が	必要	不要
著作権表示・ライセンス	同梱済み	抽出要

※ソース開示方法b)申し出添付が選択される理由の一つ？

1. コモディティ製品では、ソースCD一枚の部材増加は重い…

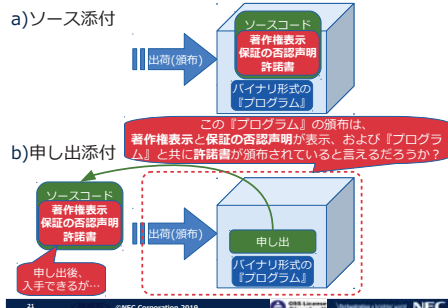
### ソース開示方法b)申し出添付のデメリット

1. 添付後3年間は、受付対応が必要
2. 第1条条件を別途満たす必要がある

1. それぞれの複製物において適切な**著作権表示**と**保証の否認声明**を自立つよう適切に掲載し、またこの許諾書および一切の保証の不在に触れた告知すべてをそのまま残し、そしてこの**許諾書**の複製物を『プログラム』のいかなる受領者にも『プログラム』と共に頒布する…

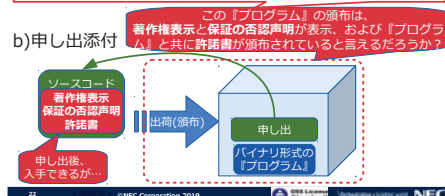
a) ソース添付ならば、ソース形式で「『プログラム』と共に頒布される」

### ソース開示方法の違いを図示



### コミュニティの多くは容認

- i. 「結局、入手できるから、いいじゃないか」(容認する)と思っているかもしれない、
- ii. **実は、(容認するつもりではなかったけど)条文を読みこなせていないだけかもしれない。**

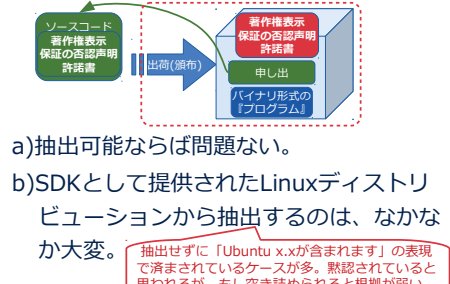


### 2007年、Skype社がGPL違反で提訴された事例

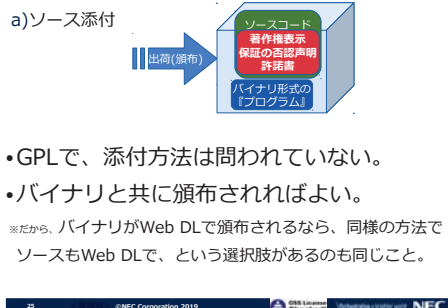
1. SMC社製IP電話をSkype社がWeb販売
2. GPL違反を認識し、一旦販売し停止
3. ソースがWebから入手可能な旨を述べた申し出を添付の上、販売再開
4. Harald Welte氏との裁判で**申し出**を添付したから起訴理由がなくなった主張
5. 判事が**ライセンス文(許諾書)**を付けなければならないと述べ、10万ユーロの賠償金(?)、販売差止の仮処分決定は棄却。

裁判になると条文通りに「『プログラム』と共に頒布」しないと危険(?)

### 許諾書等は『プログラム』と共に頒布がお勧め



### 可能ならば、ソース添付がお勧め



さらに、ソース格納媒体を製品本体にする対処案一般に、製品のソース添付する場合、CD/DVDなどの媒体に格納して媒体添付する、と思われるが、**そう、GNU GPLに書かれては、いない。**

製品本体のディスク/メモリ内に格納するメリット。

	バイナリソースコード	バイナリ
部材(原価)の増加	なし	あり
付属媒体の散逸の可能性	なし	あり

HW内ソースコードへのアクセス手段は、条件ではない

### ソースコード開示が必要な理由を考えてほしい

自由ソフトウェアとは？ <https://www.gnu.org/philosophy/free-sw.html>

プログラムがどのように動作しているか研究し、必要に応じて改造する自由(第一の自由)。

ソースコードへのアクセスは、この前提条件となります。

■著作権を基にしているGNUが、著作物ではないHWに条件を付けるわけが無い

(このバイナリ)プログラムがどのように動作しているか研究し、必要に応じて改造する、のだから

バイナリにアクセスできているのが前提

その前提ならば、その横にソースコードが格納されていて不都合はないはず。

### ソース開示していることが分からないのでは？

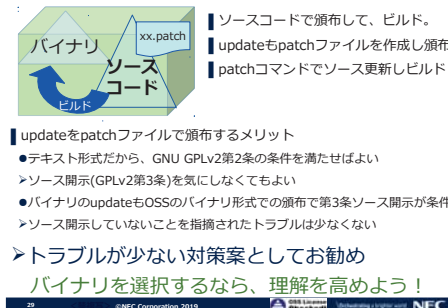
GNU GPL遵守を**示す**ためにソース開示するのではない

再頒布されるプログラムも**自由ソフトウェアであるように**、GPLで条件付きの再頒布が許諾されている。

改変の自由(第一の自由)の対象にアクセスもしない、つまり、**バイナリにアクセスもしない受領者にソース開示していることを示すという条件はGNU GPLにはない。**

※それでも「**見えていなければGPL違反だ**」と言う人はいる。**GNU GPLを正しく理解していないかと思えないが、煩わしさを回避するために媒体添付するという選択肢もある。**

### 古典的なUNIX文化のようにソース頒布を基本に



### 著作権を基に理解すれば**GPLの伝播**も誤解とわかる

例えば

ウィキペディアのGPLのライブラリの説明において、何が、間違っただけの言い分、何が、正しい言い分、わかる

[https://ja.wikipedia.org/wiki/GNU\\_General\\_Public\\_License](https://ja.wikipedia.org/wiki/GNU_General_Public_License)

ライブラリ

…、次のようないくつかの異なる見解が存在する。

見解1: プロプライエタリ・ソフトウェアを動的リンク、静的リンクすることはGPLに違反する

見解2: プロプライエタリ・ソフトウェアを静的リンクすることはGPLに違反するが、動的リンクに関しては不明瞭

見解3: リンクは無関係である

その解説は有償講義で

### GNU GPLの理解を高める、お手伝いします

■OSSライセンスと著作権法 講義(54)

第1章 OSSは一般に他人の著作物

第2章 OSSライセンス違反とは

第3章 著作権について **タイトル等変更しました**

第4章 OSSライセンスの概略

第5章 GPL感染/伝播などの都市伝説について

第6章 基本的な対策例

補遺 GPLv3について

補遺2 体制作

次回、2019年3月8日(金) NEC本社で実施。詳細は、<https://gpn.nec.com/oss/ossic/> 掲載PDF参照

1回5名まで30万円、10名まで40万円、20名まで50万円  
部社の会議室に出向いて講義します。

基本5H(午前9時～午後5時)、100ページ超のテキスト  
※ご希望により、ゆくり7Hで、急いで4Hも可能です。(費用要ります)

7H11時～20時、2020年4月17日(金)の開催あり(4H19時～20時、2020年4月17日(金)の開催あり)

一人8万円の公開(公募)セミナーの開催も可能  
※他社と同様、補遺テキスト無し、短縮4.5H

Orchestrating a brighter world

NEC